



新東名高速道路建設に伴う発掘成果

にしとみおか むこうぼた 西富岡・向畑遺跡

主催 (公財)かながわ考古学財団

共催 伊勢原市教育委員会

縄文時代の住居跡と中世の 井戸や地下式坑を発掘

にしとみおか むこうぼた
西富岡・向畑遺跡の発掘調査

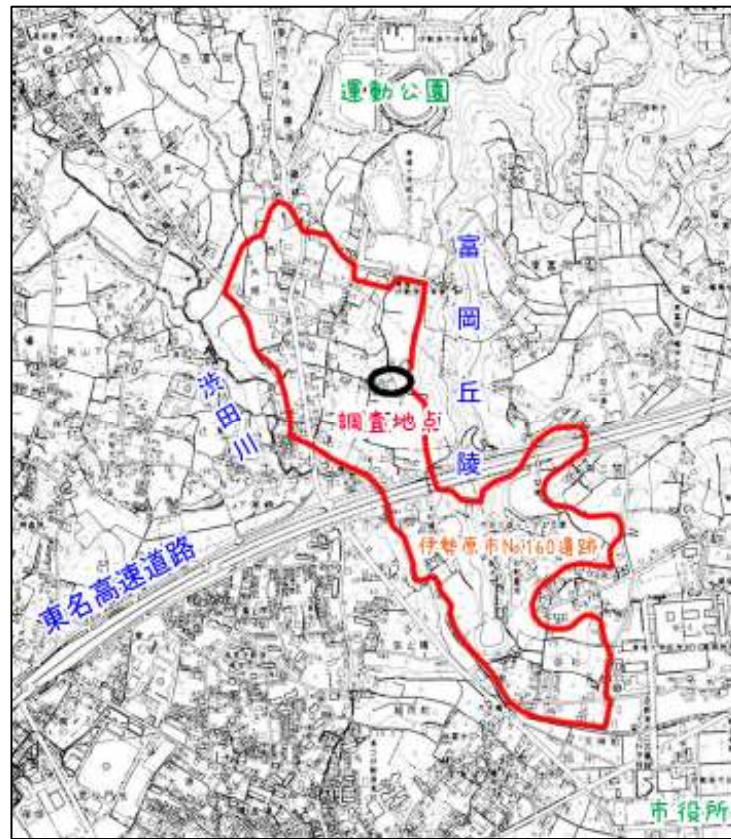
伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての台地上の集落跡、谷部からはクルミやトチの実などの堅果類が多数出土した水場遺構などが発見されており、たくさんの遺物が出土しています。今回は、縄文時代と中世の遺構・遺物を中心にこれまでの発掘調査の成果の一部を紹介します。



K2号竪穴状遺構

上の写真は、10区中世の地下式坑の写真です。床面に柱穴が見つかったので、上屋があった可能性が高いです。床面直上からは、鉄製品(右写真)が出土しています。



遺跡の位置

これまでの主な発見遺構数

——発見遺構——

中・近世: 竪穴建物 21 軒、掘立柱建物 3 棟、地下式坑 9 基、地下室 2 基、井戸 7 基、炭焼窯 1 基、土坑 350 基、溝 68 条、集石 7 基、柵列 3 列、など

古代(奈良・平安時代): 竪穴住居 223 軒、竪穴状遺構 16 軒、掘立柱建物 64 棟、土坑 465 基、溝 23 条、道 11 条、杭列 4 条、など

縄文時代: 竪穴住居 75 軒、掘立柱建物 1 棟、配石 20 基、集石 60 基、埋甕 45 基、焼土址 8 基、帯状粘土列、水場遺構(土坑 24 基、木組み 2 基、埋設土器 1 基、杭列 5 条など) など

旧石器時代: 礫群 16 箇所



10区地下式坑鉄製品出土状況



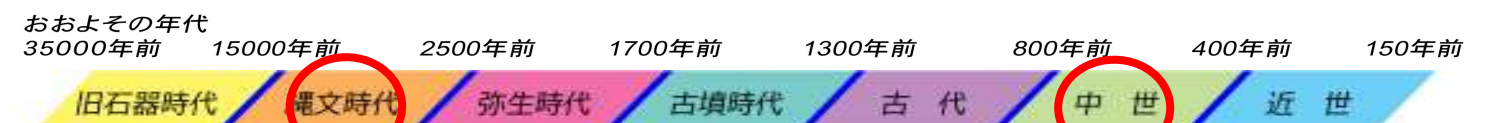
K1号井戸

上の写真は、10区K1号井戸です。この井戸は、長軸6m、短軸4.5mを測り、楕円形を呈しています。かなり大形です。本遺跡では、他にも井戸が複数見つっていますが、直径1~2mで円形を呈しています。井戸の中からは、大型の礫などとともに動物の骨が見つっています。



J1号敷石住居

10区からは、谷肩から一段下がった段切り部分で縄文時代の床面に石を敷いた敷石住居と呼ばれる住居跡が見つっています(上の写真)。石の平坦な面を上にして敷き詰められています。住居跡からは、ミニチュアの磨製石斧や石皿などが出土しています。



赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。



10区井戸内出土の動物歯



10区井戸断面

上の写真は、10区の井戸断面です。大型の礫や動物の骨を取り除いた下の土層です。上層と比較して礫があまり見られません。



新東名高速道路建設に伴う発掘成果

西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160遺跡)

2014年2月8日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市区南中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>

西富岡・向畑遺跡 中世の遺構配置図



1区西 道と畝状の溝



9区 井戸



9区 炭焼き窯



9区 中世遺構群



1区西 掘立柱建物



9区 炭化柿が出土した竪穴状遺構



出土した炭化柿(直径3cmほど)



10区西 地下式坑(断面)



4区 北宋銭が出土した竪穴状遺構



出土した北宋銭(至道元寶)



5区 深い地下式坑

今回の見学場所